

62 関脇優婆夷堂 (関都・上ノ山)

社伝によれば昔関都村の主関氏は久しく嗣子が無いため、夫婦で鎮守の麓山宮に祈願して懐妊を得たという。しかし月満ちてお産に臨んだが、陣痛が7日7晩に及んでも産まれず悩み重ねていた所、忽然と老婆が現れ呪文を称えるとその功德が現れ男子を安産しました。妻女はその靈異を崇め優婆と称し、その姿を描き寢所に祀りました。このことが世上に広まり、参詣する人が多いため、その子藤原重卿は多留良橋の元に茅舎を建て、婆鬼・翁鬼・地藏の三像を安じて尊崇したが、これも靈験あらたかで、諸人の行願を成就したと伝えられています。現在の建物は天正十三年に新築されたものです。



はやまじんじゃほんでんすし

観音開きの扉が付いた厨子

63 麓山神社本殿厨子 (千代田・村ノ内)

麓山神社は北高野集落の北東に位置し、羽山津見命を祀っています。神仏混淆の形態をとどめ鎌倉後期～室町前期の和様・唐様折衷の作風は猪苗代の神社仏閣中まれにみるものです。(町指定重要文化財)



姥神像

ほりざり うばがみぞう

64 堀切の姥神像 (三郷・下太子堂)

長瀬のおんばさまと呼ばれ、舟渡しの守護神として、また安産の神様として信仰されています。姥堂は廃仏棄釈で橋姫神社となり、昭和四十一年に現在地に移されました。この姥神像は吾妻山の山岳信仰に関わりがあったものと考えられ、長瀬川を流れてきたと伝えられています。作風は江戸中期以前の作とみられ、町内の姥神としては最も古く、彫りもしっかりしています。(町指定重要文化財)

(町指定重要文化財)

はやまじんじゃ きゆうだいじん

65 麓山神社左右大臣 (関都・権現山)

安永三年(1774)に奉納された石像で、像に刻まれた願主や施主の名から、保科正之公が会津藩に信州高遠より入府した際、石工を伴ってきたことを証明する資料であると共に当地方の麓山信仰の深さを物語る貴重なものです。(町指定重要文化財)

(町指定重要文化財)



左大臣 藤原時平公



右大臣 菅原道真公